

第 1 回 次期県立高校改革推進プラン 策定懇談会



令和3年7月26日

1

1 現行プランについて

- 1-1 基本的な考え方
- 1-2 「基本的コンセプト」と「改革の方向性」
- 1-3 取組状況
- 1-4 現行プランの評価

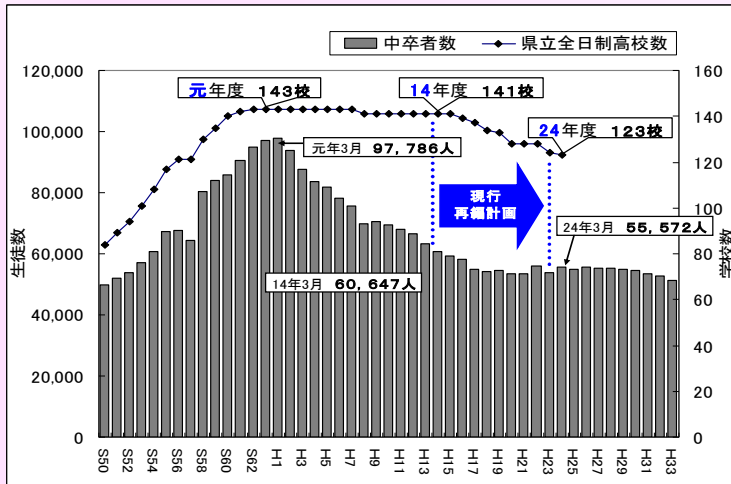


2

1-1 基本的な考え方

○ 生徒の多様化（98%の進学率）

中学校卒業生数（国公私）及び県立全日制高校数の推移（千葉県）



高校への進学率推移
（千葉県）

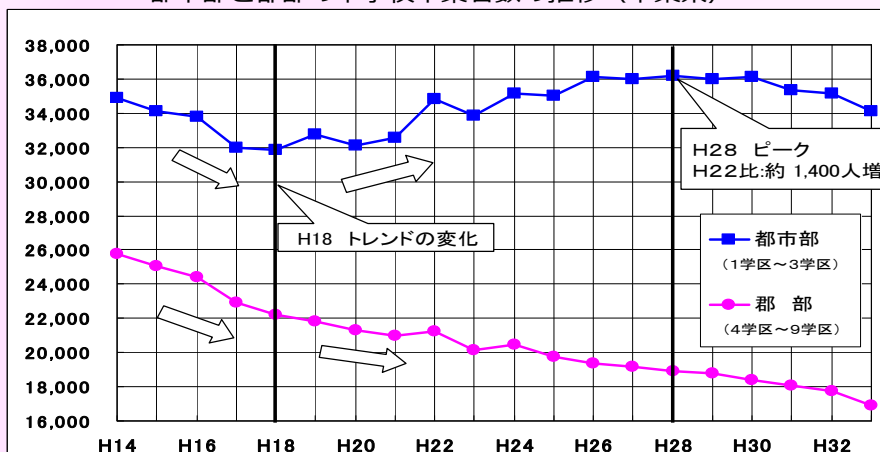
年度	割合
S25	38.4
H1	94.3
H10	96.4
H20	97.8
H21	97.9
H22	98.0
H23	98.1

現行プランより

3

○ 多様な地域性

都市部と郡部の中学校卒業生数の推移（千葉県）



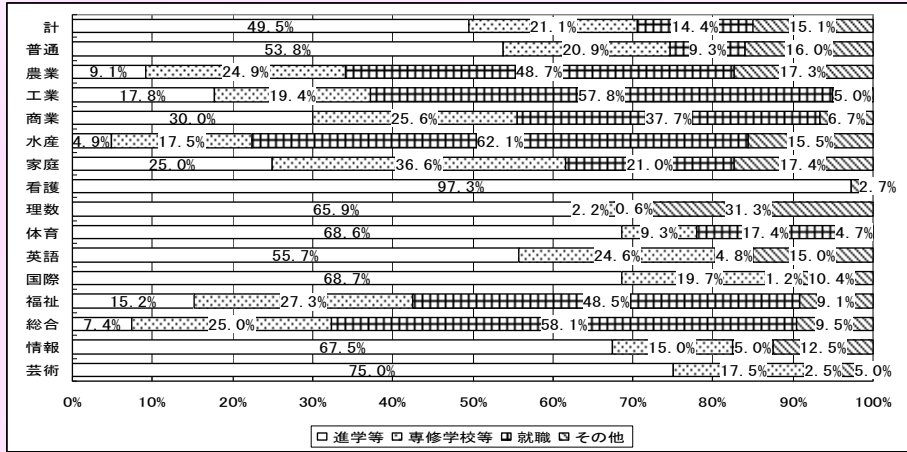
注) 平成23年までは、学校基本調査による実績値。
平成24年以降の卒業生数については、過去の実績等に基づく想定数。

現行プランより

4

○ 自立した人材の育成

公立高等学校における学科別進路状況（全日制課程）



注) 進学等：大学、短大、大学・短大の通信教育部、高校の専攻科等を含む。
専修学校等：専修学校、公共職業能力開発施設等を含む。

現行プランより

県立高等学校の現状と課題

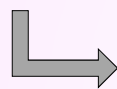
- 生徒の多様化（98%の高校進学率）
- 多様な地域性
- 自立した人材の育成



平成24年度3月
『県立学校改革推進プラン』策定



- 第1次実施プログラム：H24.3策定
- 第2次実施プログラム：H26.3策定
- 第3次実施プログラム：H28.3策定
- 第4次実施プログラム：H30.3策定



一部改訂
H30.3策定

1-2 「基本的コンセプト」と「改革の方向性」

基本コンセプト（目指すべき県立高等学校像）

- (1) 生徒が志を持って学び、夢をはぐくむ学校
- (2) 生徒や教職員が生き生きと活動して、元気のある学校
- (3) 地域の人が集い、地域に愛され、地域とともに歩む学校

改革の方向性

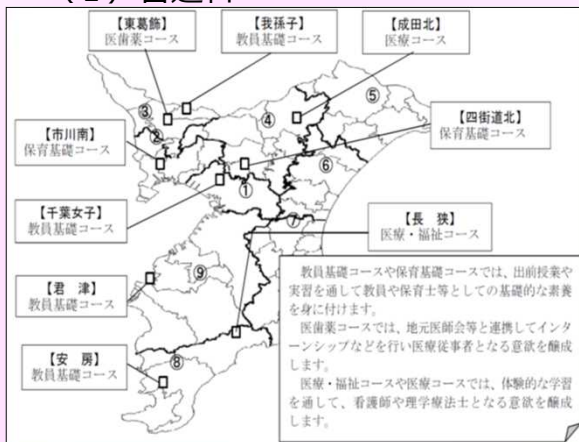
- (1) 道徳教育の推進
- (2) キャリア教育・職業教育の充実 **計画実施上の重点事項**
- (3) 生徒の多様なニーズに対応した新たなタイプの学校の設置
- (4) 確かな学力の向上
- (5) 学校と地域の連携による教育力の向上
- (6) 学校規模や配置の適正化
- (7) 学校の再編・学科の再構成
- (8) 効果的な学校運営

7

1-3 取組状況

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) 普通科

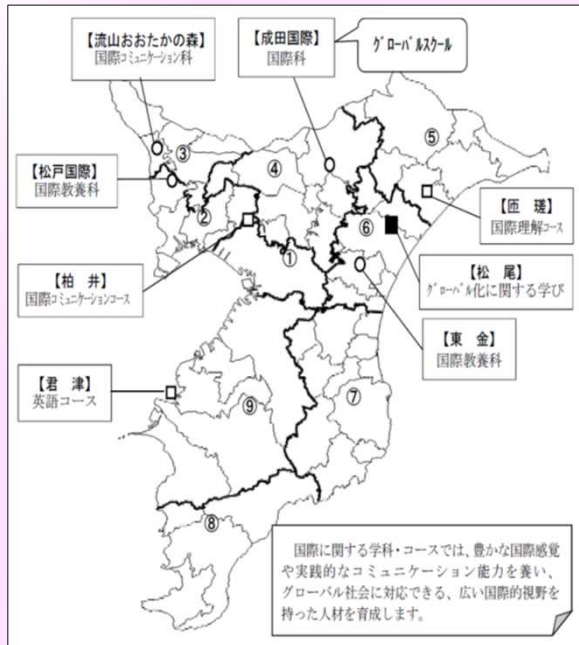


対象校	再編種
千葉女子 (H26)	教員基礎コース
安房 (H26)	
我孫子 (H30)	
君津 (H30)	
東葛飾 (H26)	医歯薬コース
長狭 (H26)	医療・福祉コース
市川南 (R1)	保育基礎コース
四街道北 (R2)	
成田北 (R2)	医療コース

学 科：専門教育を主とする学科であり、25単位以上の専門科目を履修する必要がある。
 コース：生徒の特性、進路等に応じ、学校が独自に各教科・科目をあらかじめ配列したもの。

8

(2) 英語科、国際科



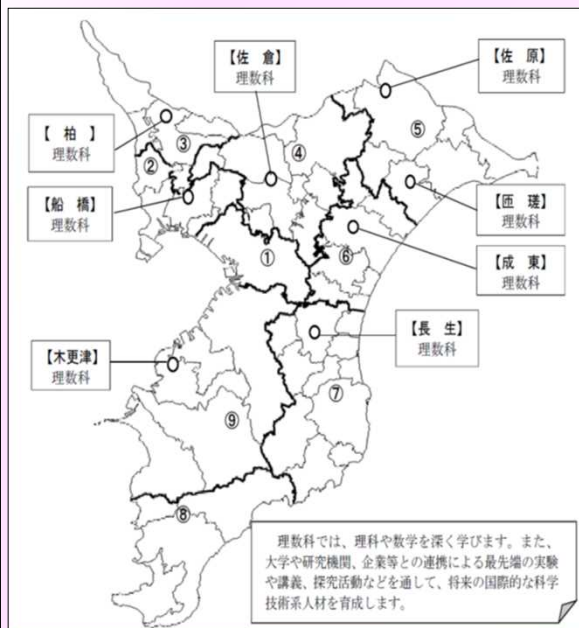
対象校	再編種
柏井 (H25)	国際コミュニケーション
成田国際 (H27)	グローバルスクール
松尾 (H28)	グローバル化に関する学び
匝瑳 (H29)	国際理解コース



【松尾：国際交流の様子】

9

(3) 理数科



対象校	再編種
佐倉 (H26)	理数科
木更津 (H29)	



【木更津：授業の様子】

10

2 職業系専門学科・コース

(1) 農業科

拠点校：教育の手法に関する研究・開発等を円滑に推進するために千葉県教育委員会が指定している学校。



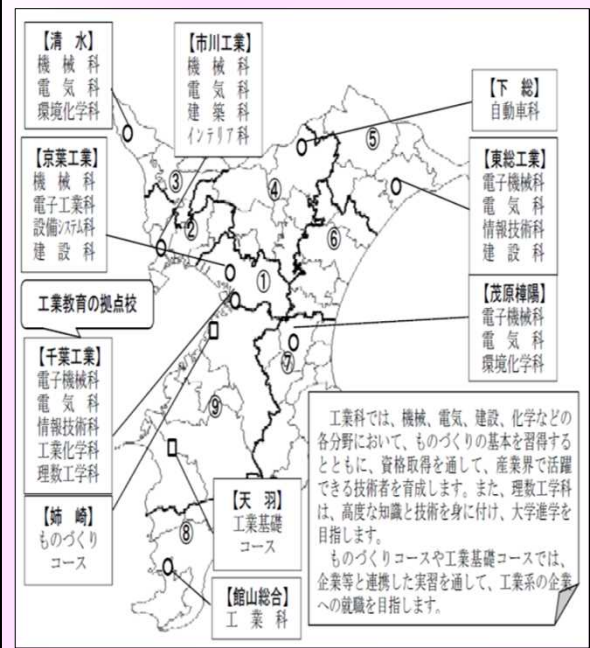
対象校	再編種
茂原樟陽 (H25)	拠点校
学科設置校 (H30)	学科再構成



【茂原樟陽：生産実習の様子】

(2) 工業科

コンソーシアム：互いに力を合わせて目的を達成しようとする組織。共同事業体。

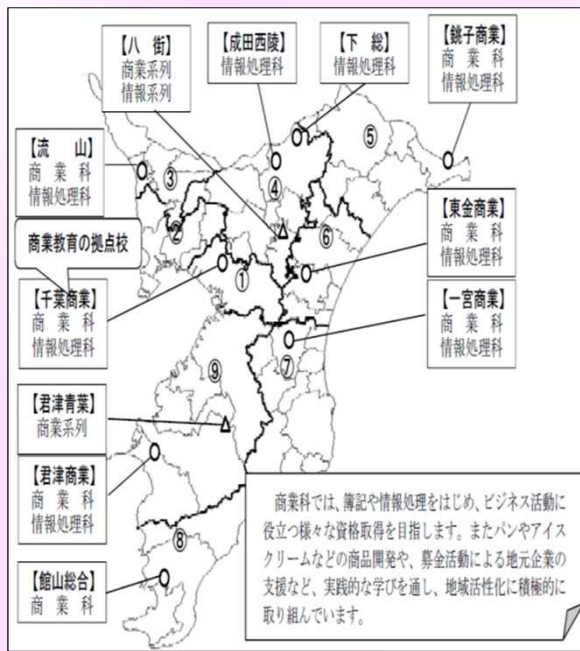


対象校	再編種
千葉工業 (H25)	拠点校
下総 (H30)	コンソーシアム 理数工学科
姉崎 (R2)	学科再構成
天羽 (R2)	ものづくりコース 工業基礎コース



【下総：エンジンの組立の様子】

(3) 商業科



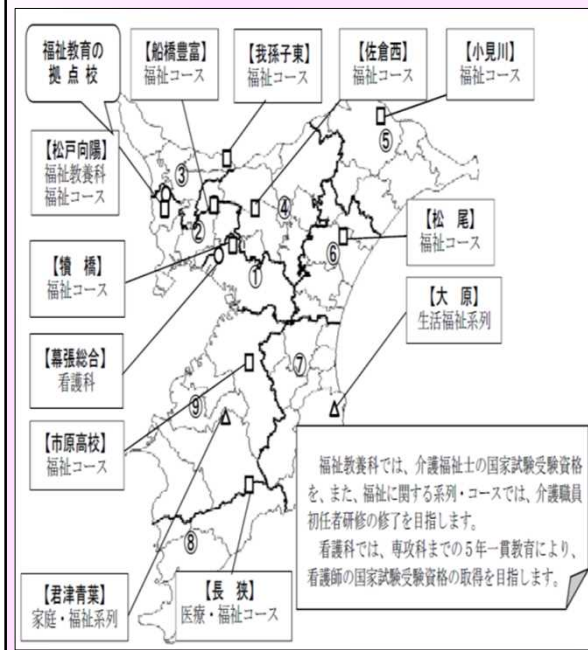
対象校	再編種
学科設置校 (H30)	学科再構成



【千葉商業：地元商工会議所との連携】

13

(4) 福祉科



対象校	再編種
松戸向陽 (H25)	拠点校 福祉コース
長狭 (H26)	医療・福祉コース
小見川 (H27)	福祉コース
佐倉西 (H29)	
我孫子東 (R1) 犢橋 (R2)	

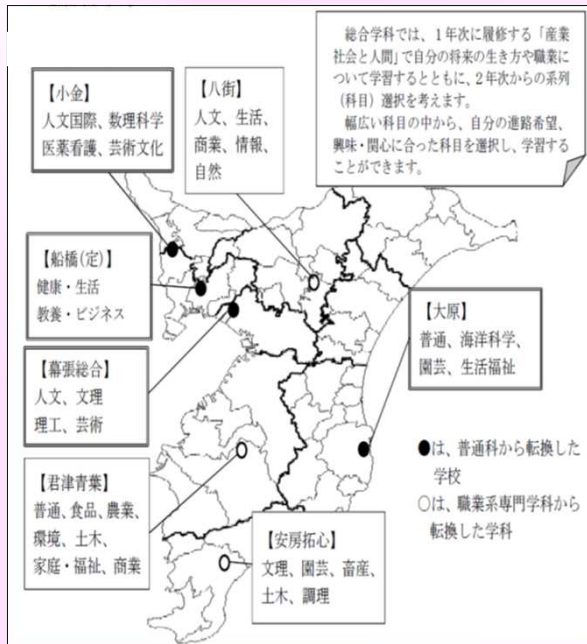


【佐倉西：手の模型を使った実技】

14

3 総合学科

総合学科：普通科目と専門科目を幅広く開設し、生徒が自ら科目を選択しながら学習できる学科。



対象校	再編種
大原 (H27)	総合学科
小金 (H28)	
幕張総合 (R1)	
船橋(定) (R4)	



【小金：課題研究発表会】

4 社会のニーズに対応した教育

(1) 単位制高校 (全日制)

単位制高校：学年の区別がなく、修得単位数の合計が卒業に必要な単位数を満たせば卒業できるシステムの学校。



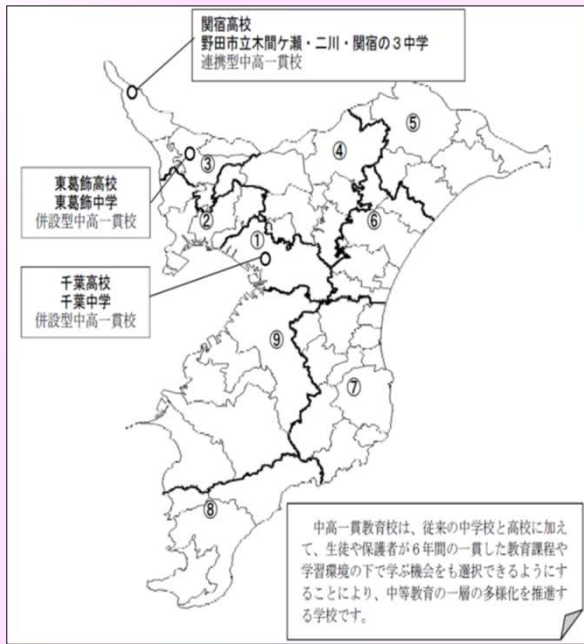
対象校	再編種
成東 (H28)	単位制
安房 (H30)	



【安房：『プレゼンテーション』】

(2) 中高一貫教育校

併設型中高一貫教育校：同一の設置者による中学校と高等学校を接続し、中高一貫教育を実施している学校のこと。



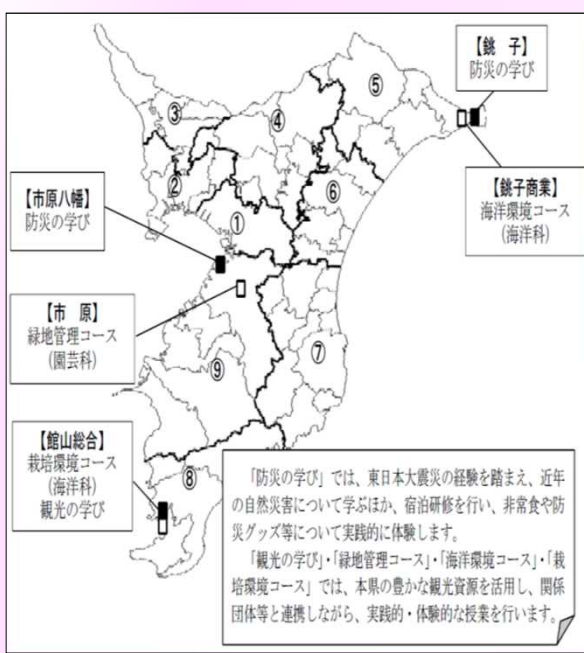
対象校	再編種
東葛飾 (H28)	併設型中高一貫



【東葛飾：夏季研修会】
※高校生が中学生の勉強を見る

17

(3) 観光・環境・防災に関する教育



対象校	再編種
館山総合 (H27)	観光の学び 栽培環境コース
銚子商業 (H27)	海洋環境コース
銚子 (H26)	防災の学び
市原八幡 (R1)	
鶴舞桜が丘 (H26)	緑地管理コース



【市原八幡：消防大学での研修】

18

6 全日制高校の配置

【市原】
普通科・園芸科
市原と鶴舞桜が丘を統合

鶴舞桜が丘グリーンキャンパス
市原高校グリーンキャンパス

【君津】
普通科・園芸科
君津と上総を統合

上総高校
上総キャンパス

【大原】
総合学科
大原・勝浦若潮・岬を統合

岬高校農場
農業実習場

勝浦若潮高校実習場
進業実習場

中学校卒業生数の減少の中でも、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるように、県立高等学校の学校規模の適正化を図り、あわせて学校及び学科の適正な配置を実施します。づくりの仕組みです。

対象校	統合後
大原 岬 勝浦若潮	大原 (H27) (総合学科)
市原 鶴舞桜が丘	市原 (R1) (普通科・園芸科)
君津 上総	君津 (R3) (普通科・園芸科)

【上総：校旗返納式HPより】

21

7 定時制高校の配置

三部制定時制高校：午前部・午後部・夜間部で構成する学校。

【松戸南】
三部制定時制
午前部・普通科
午後部・普通科
夜間部・普通科

【東葛飾】
普通科

【佐倉南】
三部制定時制
午前部・普通科
午後部・普通科
夜間部・普通科

【佐原】
普通科

【鏡子商業】
商業科

【市川工業】
工業科

【船橋】
総合学科

【千葉商業】
商業科

【千葉工業】
工業科

【生浜】
三部制定時制
午前部・普通科
午後部・普通科
夜間部・普通科
全日制普通科

【木更津東】
普通科

【長生】
普通科

【長狭】
普通科

【館山総合】
普通科

【匝瑳】
普通科

【東金】
普通科

対象校	統合後
千葉工業 (R2)	工業科再構成
市川工業 (R2)	工業科再構成
木更津東 (R2)	商業に関する コース
船橋 行徳 (R4)	総合学科
佐倉南 (R4)	三部制定時制

22

8 通信制高校の配置

通信制高校：自学自習を基本とする高校。スクーリング、レポート提出、定期試験で単位を修得していく。



対象校	再編種
館山総合（H29）	通信制協力校制度



【館山総合：スクーリングの様子】

23

1-4 現行プランの評価

(1) 現行プランに係る評価の作成

《評価の目的》

- 実施状況及び成果や課題の把握
 - より一層魅力ある県立学校づくりの推進
 - 今後の高校改革に係る計画の策定

《評価の進め方》

- 再編の実施年度から3年が経過した学校
(初めての卒業生)
- 各種調査及び外部からの意見聴取



24

(2) 評価対象

《再編年度》

○平成24年度～平成29年度

《評価年度》

○平成27年度～令和元年度

《評価対象校》

○30校

- ・普通科及び普通系専門学科・コース 10校
- ・職業系専門学科・コース 7校
- ・総合学科 1校
- ・社会のニーズに対応した教育 8校
- ・全日制高校の配置 3校
- ・定時制・通信制高校の配置 1校



25

(3) 現行プランの主な成果○と課題▲

①生徒の多様なニーズに対応した

様々なタイプの学校づくり

○生徒の多様なニーズに対応した**新たなタイプの学校、学科、コース**を設置。

例) 単位制、三部制定時制、総合学科、教員基礎コースなど

▲学びと進路のミスマッチにより、**生徒募集に苦慮している**学科やコースがある。

例) 英語コース、福祉コース、

職業系専門学科(農業、工業、水産など)



【木更津：理数科の授業の様子】



【千葉工業：「産業工学研究」の様子】

26

【佐倉西：車椅子を使った実技】

②勤労観・職業観の育成

- 学びながら、**将来につながる資格**を取得できる。

例) 介護職員初任者研修 (R 2. 3 卒)

修了者数 1 6 8 名 (卒業生 1 8 1 名)

- 高校生の段階から専門的に学ぶことで、**進路選択のミスマッチを防ぐ**ことができる。

例) 教員基礎コース (R 4 年度) **正規採用 8 名** (卒業生 7 1 名)

- ▲高校卒業後の進路が学んだ内容と**直結していないケース**がある。

例) 農業科 (R 3. 3 卒) 就農者 1 5 名 (卒業生 7 9 9 名)

佐倉西 (R 2. 3 卒) 就職者 3 名、
進学者 2 名 (福祉コース 1 8 名)



27

③学校と地域との連携・協力及び生徒の社会参画

- 拠点校を中心に、**関係団体と連携**を図ることで、学びを深めることができた。

例) 農業科：「アグリサポーターズちば」の運営

工業科：「コンソーシアム」の設置

- 学校や生徒が地域に関わることで、**地域の活性化**が図られた。

例) グローバル化に関する学び、観光の学び

- ▲地域と連携した学びが**単発**であったり、**浅い学び**で終わってしまう。

例) 3年間を見通した段階的取組に至っていない。

コンソーシアム：互いに力を合わせて目的を達成しようとする組織。共同事業体。

28

④インターネットを活用した授業や学習支援

○映像教材やデジタル教材を活用し、学習内容を補充した。

例) 「通信制協力校制度」による面接指導(スクーリング)

▲教員のICT活用スキルが不足している。

例) 電子黒板やタブレット端末の効果的活用ができていない。



【千葉工業：ICTを活用した授業の様子】



【館山総合：スクーリングの様子】

29

⑤特色ある高等学校づくりの推進

○生徒・保護者や近隣中学校へのアンケートでは、概ね良好な回答が得られている。

例) 地域連携アクティブスクール、グローバルスクール、
医療福祉コース、教員基礎コース

▲主として、普通科の平均的な学校において、特色化に苦慮している実態がある。

例) 普通科高校における画一的教育カリキュラム



【姫路：留学生との授業の様子】

30

⑥外部団体からいただいた御意見

- ・ **中卒者数の推移**や**生徒、保護者、地域のニーズ**
→県立高校の再編
- ・ 中学生が、「**入りたい**」「**学びたい**」と思っ
てもらえる学校
- ・ **効果的な情報発信**の推進

《参考》 プラン評価より

- ・ 子どもたちが学校に行きやすい環境の学びをもっと取り入れるべき。
- ・ 郡部の定員割れを何とかしないと、学校が生き残っていけない。
- ・ 再編して2、3年では、学校は創れない。何年もやって、実績を積み、地域に根付いてからが、評価ではないか。

31

⑦おわりに



『**県立学校改革推進プラン**』 **コースなどの魅力づくりが中心**

- ◎各学校の特色化・魅力化
- ◎一定の評価
- ▲一部の学校のみでの再編
- ▲時代に変化に対応した再編の必要性

32

2 国の方針・他県の取組等

2-1 国の方針

2-2 他県の取組

2-3 第2期千葉県地方創生総合戦略

2-4 県としての考え方



33

2-1 国の方針

- **全ての子どもたちの可能性**を引き出す探究・地域協働の学びを重視し、**個別最適な学び**を目指す
(教育再生実行会議第11次提言)
- **多様な人々と協働**しながら、様々な資源を組み合わせ、**探究の力を全ての生徒に育む**
(国の教育振興基本計画)
- **キャリア教育、職場体験等の促進、地域の課題を
考える取組等**を全校で進める (国の教育振興基本計画)



34

2-2 他県の実施

- 課題解決型学習モデル校の指定（東京）
- 普通科高校キャリア教育モデル校の指定（東京）
- 類型・コースを発展させた
フィールド（選択科目群）の導入（北海道）
- 郡部特例校制度を創設（北海道）
- 適正規模以下の小規模校の在り方と
統合等検討手順を明示（19道県）



35

2-3 第2期千葉県地方創生総合戦略

- 人口減少・少子高齢化
→ 多方面において人手不足
（商工業・農林水産業・医療・福祉・介護等）
- 若者等の県外流出に歯止めをかけ、魅力ある雇用の
場を創出することが不可欠



36

2-4 県としての考え方

- 「子供たちが将来働く**経済産業構造**や**労働市場**に**対応した学校教育**を行う必要がある」
- 「**教育施策**と**経済労働施策**や**こども福祉施策**との**連携**が不可欠」
- 「市町村、**経済界**や**各種団体**と十分対話し、**県民の英知**を**結集**する」

令和3年6月県議会代表質問での知事答弁から抜粋



37

3 今後の生徒数の推移と県立高校の適正配置

3-1 各校の現状

3-2 人口減少・少子化への対応



38

3-1 各校の現状

公立高校設置数、学級数、生徒数、教員数

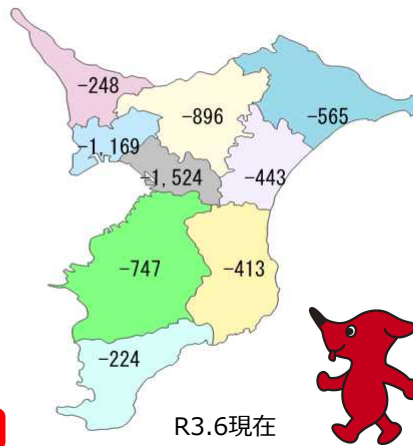
設置者	学校数			全学級数			全生徒数			本務教員数		
	H24	R3	増減	H24	R2	増減	H24	R2	増減	H24	R2	増減
県立	125	121	▲4	2,545	2,480	▲65	98,926	92,386	▲6,540	6,634	6,572	▲62
市立	7	7	0	186	180	▲6	7,236	6,967	▲269	477	498	+21
合計	132	128	▲4	2,731	2,660	▲71	106,162	99,353	▲6,809	7,111	7,070	▲41

※学級数、生徒数、本務教員数については、全定通全課程の学級数・在籍者数である
(教育便覧より)

3-2 人口減少・少子化への対応

○学区別にみる中学校卒業者の減少数（社会増減を考慮した推計）

学区	R4.3卒	R14.3卒	差
1	8,471	6,947	-1,524
2	18,440	17,271	-1,169
3	8,729	8,481	-248
4	6,256	5,360	-896
5	1,994	1,429	-565
6	1,542	1,099	-443
7	1,555	1,142	-413
8	832	608	-224
9	5,178	4,431	-747
全県	52,997	46,768	-6,229



R3.6現在

主な論点

- I 生徒の多様なニーズに対応した学び
- II キャリア教育
- III 地域と連携した学び
- IV 中卒者数の減少への対応

